

地域自主組織『まちづくり大山』

「コロナ禍の中で

（地域医療を考える場と子どもの居場所づくり活動）

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大する中、県内でも感染者が増加し、各種イベントの中止や活動の自粛が続いています。

まちづくり大山では、不特定多数の方が参加されるイベントについては中止し、地域住民等の参加者が特定できる活動は、三密を避けるとともに、会場の換気や消毒などの感染予防対策を徹底しながら、5月以降も通常どおり行ってきました。なかでも、毎週開催している『健康塾』では毎回参加者が10名以上あり、高齢者の引きこもり防止と健康づくりに役立っています。参加された皆さんからは「家でテレビを見るだけの生活だったのが、健康塾で体操や笑うことができ、気分がスッキリした。」などの声をいただきました。

昨年度から定期的に開催している『地域医療を考える会』は、7月に再開しました。今回は、朴先生による「大山診療所に赴任して1年」という演題で、診療から見た地域の課題について講演いただきました。

講演では、診療所の変化として4つの報告をされました。



▲地域医療を考える会

- ①内科だけでなく、小児科・外科など様々な疾患や患者にも対応。
- ②なんでも相談に乗る、いつでも対応する。
- ③訪問診療等で患者数が約35%増加した。

④自宅での看取り件数が倍以上、小児の診療が5倍以上（いずれも前年比）になった。

また、「大山地区でも、老々介護、同居世帯、交通・社会的孤立不安が見られ、『医学的治療より暮らしや老いを支える』ことが課題ではないか。」と提起されました。

その後、『診療所でのサロン（待合室を利用し、住民同士のおしゃべ

りの場の提供』をテーマに、ワークショップを行いました。サロンの取り組みの目的は、健康や暮らしのこころなどを気軽に相談（おしゃべり）することで精神的不安を減らすことです。参加者からは、病気の感染を心配する声もありましたが、その一方で「気軽に病気や暮らしなどについて不安が共有できる場になればいい。」という声もあがりました。サロンは8月7日から、毎週金曜日（午後1時～3時）に開き、地元の元看護師に常駐していただく形で実証実験を予定していましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症が県内でも多数発症したことから当面見送ることにしました。

引き続き地域医療という視点で『健康で安心して暮らせる』地域づくりに取り組みます。

【普段と違う夏休み】

まちづくり大山では、長期休暇中の大山小の子ども達の居場所として、大山農村環境改善センターを活用した取り組みを実施しています。今年の夏休みはコロナ禍の影響により、例年より短い休みになりました。これまでの取り組みの成果なのか、今回は約30名もの子どもの利用登録があり、毎日20名程度集まってきました。

す。感染症予防対策として、毎日の検温やこまめな消毒、マスクの着用徹底等を行いました。子ども達は宿題等しながら館内で過ごし、小学校のプールに出かけたりと思いの時間の時間を過ごし、楽しんでいました。また、自分達で遊びを考えたり、皆で仲良く過ごす様子が見受けられました。冬休みまでに新型コロナウイルス感染症が収束するのを切に願います。



▶夏休みの宿題に取り組んでいます

【問い合わせ先】

まちづくり大山事務局

（大山農村環境改善センター内）

☎0859・53・8139